

平成31年度 施政方針（概要版）

はじめに

平成最後となる、施政方針演説を北茨城市議会で申し上げる立場にあることに対して、この上ない感慨の念と責任の重さを改めて実感しているところでございます。

本年4月30日の天皇陛下の御退位と、翌5月1日の皇太子殿下の新天皇御即位により、希望に満ちた新たな時代へととなります。私自身「感謝と思いやり」の政治理念を、改めて心に深く刻み、平成の先の時代に向かって、「夢と希望の持てる日本一幸せなまち北茨城市」を実現するために身命を賭して市政の推進に取り組んでまいります。

【震災復興】

□未曾有の大震災から8年の時が経過しようとしておりますが、復興・創生期間も残すところ平成31年度、32年度の2ヵ年となりました。

□震災復興への集大成となる今後2年間については、復興関連事業である新清掃センター整備の実現と残る復興事業の早期完了に全力を傾注してまいります。

【地方創生】

□今から約350年前に開拓築造され中郷町松井・栗野・日棚地区の農業用水路で、現在も利用されている十石堀水路について、本年2月に十石堀維持管理協議会と共に世界かんがい施設遺産に登録申請いたしました。

□十石堀親水公園などの周辺環境も含めた整備を検討し、貴重な遺産として市内外に発信し未来永劫保存伝承してまいります。

□地域おこし協力隊が任期の最終年度を迎えますが、地域の作家や外部の作家と融合した「桃源郷芸術祭」開催など芸術によるまちづくり活動を支援してまいります。

□東京藝術大学の初代学長岡倉天心との縁から、東京藝術大学の藝祭に「岡倉天心 北茨城市長賞」を創設。その受賞作品を20名を超える藝大生たちのパフォーマンスとともに市民夏まつりでお披露目し、その後、市内で展示いたします。

□「芸術のまち北茨城」をより一層発信し、移住・交流や関係人口の増加を図り地域活性化につなげてまいります。

「協働でつくる希望あふれるまち」について

□都市交流では、岡倉天心が五浦を「東洋のバルビゾン」と称したことから、未来を担う若者の感性と知識を磨きグローバルな人材を育成するため、フランス共和国バルビゾン地区への派遣事業を実施いたします。

□市民参画・市民協働により、まちづくりの指針となる「第5次北茨城市総合計画」の

策定を進めます。

□市民の納税に対する意識向上と努力により、約10年前は83.7%であった市税徴収率が、昨年度は95.7%まで向上、引き続き、納税意識の向上を図り、自主財源の確保に努めます。

「いのち輝く ぬくもりのあるまち」について

□市民の生命と健康を守ることが行政の最大の責務であり、市長就任時より、医療の充実を最重要課題として、全身全霊を傾注して取り組んでまいりました。

□市民病院では筑波大学、自治医科大学、東京医科大学、福島県立医科大学、茨城県と医師確保などの面で信頼関係を築き、診療体制の充実に努めております。

□経営面では、一般会計から9億円を超える支援が必要な状況でした。しかし、市民の健康と命を守るには市民一人1万円程度で約4億円までの負担はやむを得ないと考えておりました。現在は一般会計からの支援を約4億円まで改善を図ることができたことから、引き続き健全経営に努めてまいります。

□筑波大学に地域総合診療医学の寄附講座を設置。医師不足の解消と総合診療医や家庭医の育成を図り、在宅での診療や訪問看護の充実を図ります。

□全国に先駆けてコミュニティケア総合センター（元気ステーション）を設置いたしました。医療、介護、保健をはじめ子育てや身体の不自由な方など市民全ての総合相談窓口となり、住み慣れた地域で安心して生活ができるよう包括的で一体的なサービスを提供いたします。

□子育て支援では、市独自で実施する子育て世帯応援商品券の支給と保育料の第2子以降無償化を継続いたします。

□「中郷子どもの家」、「磯原子どもの家」を開設し、安心して子育てできる環境づくりを推進しております。

□医療福祉費支給制度では、市独自の支援として18歳までの小児医療費の完全無料化と妊産婦への助成を継続し、安心して医療が受けられるよう子育て世代の経済的負担を軽減いたします。

「文化が香る はつらつ学びのまち」について

□私は常に「教育は平等」でなければならないとの考えを抱いており、その信念のもと教育行政を推進しております。

□磯原中学校校舎等施設建設では、磯原中学校、華川中学校統合準備委員会の意見を反映させ、学校敷地の造成工事と校舎、屋内運動場、柔剣道場などの工事に着手し、平成33年4月の開校を目指します。

□学校教育は日本固有の風土である四季を感じることで学び、心身ともに成長すると認識しておりましたが、昨年夏の災害的といわれる猛暑に対しては、児童・生徒の健康面

への配慮が必要であると判断し、早急な財政措置をして未整備の小中学校へ空調設備を設置いたします。

□リニューアルオープンする北茨城市歴史民俗資料館（野口雨情記念館）では、野口雨情童謡詩100周年記念企画展を計画。観光資源として市内外へ広く発信するとともに、市の特色を示す歴史、民俗文化等の資料を保存展示し、文化の振興に努めます。

□国重要無形民俗文化財「常陸大津の御船祭」が、5年に一度の大祭を迎えます。特色ある郷土の民俗文化として保存伝承に努めてまいります。

□茨城国体では、ソフトテニス競技会が開催されます。大会には日本全国から多くの選手、関係者、応援をする方が訪れることから、皆様を心からのおもてなしと万全の大会運営でお迎えできるよう、準備を進めます。また、国内最高レベルの選手達による大会は、市民に夢と感動を与えスポーツに対する関心と意欲を高めることから、市民の体力と健康の増進につながるものと期待しております。

「暮らしに安心 幸せを感じるまち」について

□国の直轄事業として採択されている国道6号勿来バイパスは、早期完成を求め茨城・福島両県の30の民間経済団体で構成される組織が設立されました。産業経済や交流人口の拡大など大きな期待が寄せられていることから、関係各機関と連携して事業促進のための要望活動等を積極的に行います。

□都市計画道路「駅西停車場・豊田線」は、磯原中学校移転計画にあわせて現道の拡幅と歩道を設置いたします。また、この路線は県道北茨城インター線と直結し、JR磯原駅に直接アクセスすることから、災害時の避難路や生活利便性の向上が期待されます。

「人と自然が元気な 潤いのあるまち」について

□施設稼働から39年が経過する清掃センターは、「環境施設等整備検討審議会」から焼却炉などの更新の必要性を答申されるなど、施設の老朽化対策が喫緊の課題でありました。

□環境省の循環型社会形成推進交付金と震災復興特別枠の活用により総建設事業費約114億5,000万円の最大97.5%が国から交付される見込みがつかしました。

□老朽化などによる施設整備の必要性、交付金活用の要件となる人口5万人以上など、総合的な観点から広域処理方式とし、隣接する高萩市と広域的な処理施設建設で基本合意を締結いたしました。

□南中郷の建設予定地は、茨城県と土地譲渡について本年1月31日に仮契約を締結。茨城県議会第1回定例会において承認後に本契約締結となる予定です。

□事業実施の裏付けとなる予算措置については、国の循環型交付金の一部が既に交付決定されております。

□本年は、施設整備に向けて一部事務組合の設立、生活環境影響調査、測量調査の実施、

基本計画策定などを進めます。

□清掃センターの新設は、市民全員の生活に密接に関係することから、今を生きる私たちと将来世代のためにも、整備して良かったと思える施設となるよう、私の持てる力の限り全身全霊を傾注して新清掃センター整備に取り組めます。

□政府の地震調査委員会は、今後30年間にマグニチュード8程度の大地震が起こる可能性の予測を公表。本県沖でも地震が起こる可能性が80%程度とされております。

□日中の災害時でも迅速に活動できる消防団員を確保する必要性から、機能別消防団員制度を創設し、市役所内に消防団を設置いたします。

□各地区の消防団OBが、大規模災害時などに特定の活動に従事する消防団組織を結成いたします。

「未来を支える 個性と活力のまち」について

□少子高齢化による人口減少や東京圏への一極集中による若年層の流出など、地方を取り巻く環境は厳しい現状にあります。

□企業誘致奨励金、雇用者奨励金、固定資産税優遇、高萩・北茨城工業用水の3年間無料化、茨城産業再生特区による税の優遇制度などを活用し、積極的な企業誘致活動を展開しております。引き続き企業誘致と既存企業の支援に努め、働く場の創出と拡充に努めます。

□観光を活用したまちづくりを実現する「観光アクションプラン」を策定し、人材育成や環境整備、新たな観光資源開発や既存資源のブラッシュアップなどを図り、県内オンリーワンの観光先進地を目指します。

□江戸時代に物資輸送の拠点港として繁栄した歴史的な事実とその名残を残す港まち平潟地区で、地元協議会設立などの機運醸成を図り新たな活性化方策を検討いたします。

□重要政策である農業は、世界的な食の安全安心に対する関心の高まりと市場規模が拡大する成長産業であることから、将来の農業の維持と活性化のために、新たな農業振興策の取組みを模索いたします。

平成31年 3月 1日

北茨城市長 豊田 稔